

あと半年に
全学同窓会発足まで

全学同窓会への期待

新潟大学理事・副学長(研究担当)
兼東京事務所長

板東武彦

同窓会は青春の一時期を過ごした「場」を共有する群れであり、このつながりは、時代を共有した友に限らず、先輩・後輩に広がり、多くの機能を果たします。その中で、同窓会は現在の大学とつながります。

昔の新潟大学は、通例に洩れず、「象牙の塔」でした。法人化を機とし、大学人の多くは、社会の中での「大学の位置づけ」を、真摯に再考することとなりました。教育と研究は大学の本来の仕事であり、新潟大学は今後とも、この両者に精進しますが、その中味はおのずから変わります。なかでも、大学にノウハウがないのは、社会連携です。これまでに蓄積した知的資産を積極的に社会に展開してゆくため、新潟市、第四銀行、日本政策投資銀行と公共性を念頭においた包括提携を結びましたが、何よりも社会での経験が豊富な同窓会員のご指導が必要です。この点で、東京事務所の活動を、新潟大学東京イノベーションクラブを通じ、首都圏同窓生が一丸となってご支援いただいていることに感謝しております。

今後の発展には同窓会との互助的な連携が大切です。大学に籍を置く一人として、今後のご指導ご鞭撻をお願いします。

学部同窓会が全学同窓会の核に



全学同窓会連絡協議会 副会長 田中隆一

国立大学法人新潟大学の発足と軌を一にしてスタートした全学同窓会連絡協議会の広報紙「雪華」第3号をお届けします。

各学部同窓会が長い歴史と伝統を誇る活発な同窓会活動を続けてきたのに対して、これまで新潟大学には全学的な同窓会組織がなかったということに意外だという印象を持たれた方も多いと思います。法人化後の競争的環境の中で、これから各学部はもちろんですが、新潟大学自体も生き残りを賭けた厳しい評価にさらされることになります。八万余の新潟大学同窓生はひとしく、法人化を契機に新潟大学が大きく発展して欲しいと願っていることと思います。その同窓生の母校を想う気持ちの一つにして新潟大学を応援したいものですが、それにしてもあまりにも大きな集団です。そこで、組織が確立されている各学部同窓会が核となり、教職員、学生とスクラムを組んで全学同窓会を動かしていこうということになっています。いましばらくの準備期間を経て、平成18年度から新潟大学全学同窓会が正式にスタートする予定です。

お届けしている広報紙「雪華」が、これまでばらばらであった新潟大学同窓生の間の絆を結ぶきっかけとなることを期待します。

17年度第1回理事会・第3回運営委員会議事概要

平成17年5月21日(土)に新潟大学松風会館において、柳本、田中、多和田、藤井、中山、小林、瀬賀、池田(内田 代理)の各理事、並びに富岡監事、大学側より池田総務部長などが出席して17年度第1回理事会が開催されました。今回は運営委員会との合同会議の形で開催され、運営委員や各学部同窓会の副会長などが多数出席しました。理事会での決定事項の概略は以下のとおりです。

■16年度事業報告および決算が報告されました。平成17年4月21日に実施した監査結果について問題が無かったことが富岡監事から報告され、16年度の決算報告と監査結果が承認されました。

■17年度事業計画が原案通り了承されました。

■平成17年10月29日17時よりカリフォルニア大学の中村修二先生による記念講演会を新潟大学と共催で実施することが了承されました。また、この記念講演会に引き続き、全学懇親会交流会を行うことが了承されました。

■広報紙「雪華3号」について、平成17年9月に発行することや、企業からの協賛金をお願いすること、広告依頼も計画していることなどの説明がありました承認されました。

■新潟大学と全学同窓会連絡協議会の17年度第1回懇談会のテーマ「新潟大学のさらなる発展に向けて」について検討しました。また、新潟大学のブランド構築についても話し合いました。

■平成18年4月に発足する新潟全学同窓会の会則案を運営委員会で検討し、最終的に理事会で承認を得る予定であることが了承されました。



運営委員会の運営

運営委員会は、理事会の下部組織で、全学同窓会の具体的な事業を実施するための実務担当者が運営しています(委員長:金子(工)、副委員長:佐藤(歯)、小柴(人)、鷲山(医))。また、実務を確実に効率的に行うために、5つの部門を設け分担して実務を行っています。

■広報部…広報紙「雪華」などの作成とHPの準備。協賛企業への対応。(部会長 鷲山(医))

■交流・学術部…全学講演会の企画・実施、全学同窓会の懇親会などイベント。(部会長 小柴(人))

■会計部…金銭管理。予算の立案と決算の報告。事務用品の管理。(部会長 山本(農))

■会員サービス部…会員へのサービス対応。会員の要望への対応。(部会長 佐藤(歯))

■総務部…事業の推進・実務の掌握、調整、窓口。運営の責任部門。議事録作成。事務の統括。(部会長 金子(工))

新理事就任

全学同窓会連絡協議会の新理事に小林 進保健学科同窓会長と斉藤寿一郎教育人間科学部同窓会長が就任しました。

新潟大学全学同窓会会則案

新潟大学全学同窓会連絡協議会では、平成18年4月1日に発足予定の新潟大学全学同窓会の会則の整備を進めています。現時点での会則案は下記の通りです。

新潟大学全学同窓会会則案(抜粋)

- 第1条 本会は、新潟大学全学同窓会と称する。
- 第2条 本会の事務所は、新潟市五十嵐2の町8050番地 新潟大学内に置く。
- 第3条 本会に支部を置くことができる。
- 第4条 本会は、新潟大学の発展と社会への貢献に資するとともに、会員相互の交流と連携及び親睦を図ることを目的とする。
- 第5条 本会は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。
- (1) 新潟大学との連携と協力の推進
 - (2) 第6条第1号に規定する同窓会への支援と相互間の連絡及び調整
 - (3) 交流会及び講演会等の開催
 - (4) 新たな部局同窓会設立の支援
 - (5) その他本会の目的を達成するために必要な事業活動
- 第6条 本会は、次に掲げるものをもって構成する。
- (1) 新潟大学の次に掲げる同窓会(以下「各学部同窓会」という。)の会員

イ 人文・法・経済学部同窓会	ロ 教育人間科学部同窓会
ハ 理学部同窓会	ニ 医学部学生会
ホ 歯学部同窓会	ヘ 工学部同窓会
ト 農学部同窓会	チ 医学部保健学科同窓会「南山会」
 - (2) 前号に所属しない新潟大学に関わるすべての卒業生及び修了生
 - (3) 国立大学法人新潟大学に在職する役員及び教職員並びに役員及び教職員であった者(法人化前の新潟大学教職員であった者を含む。以下「校友会員」という。)
 - (4) 本会の目的に賛同し協賛する企業、団体及び個人(以下「協賛会員」という。)
 - (5) その他会長が認めた者(「特別会員」という。)
- 第7条 新潟大学の学部及び大学院に在学する学生を準会員とする。
- 第8条 本会に、次の役員を置く。
- (1) 理事 9人以上12人以内
 - (2) 会計監事 若干人
 - 2 本会に会長及び副会長を置き、理事のうちから互選する。
 - 3 会長は、本会を代表し、会務を統括する。(略)
- 第9条、第10条 (略)
- 第11条 本会に、理事をもって組織する理事会を置く。
- 2 理事会は、次に掲げる事項を審議する。
 - (1) 本会の運営に関する重要事項
 - (2) 会則の改廃に関する事項
 - (3) 事業計画及び事業報告に関する事項
 - (4) 予算及び決算に関する事項
 - (5) その他本会の目的を達成するため必要な事項 (略)
- 第12条 本会の事業を円滑に実施するため、運営委員会を置く。(略)
- 第13条 本会の経費は、次に掲げるものをもって充てる。
- (1) 各学部同窓会からの賦課金及び分担金
 - (2) 会員からの賛助会費 (3) 協賛会員からの年会費
 - (4) 寄附金 (5) 事業に伴う収入
 - (6) 預金から生ずる利子 (7) その他の収入 (以下略)

平成16年度会計報告 (平成16年4月1日～17年3月31日)

収入の部	費目	予算額(円)	実績(円)	備考
	賦課金	240,000	240,000	全学部同窓会入金
	分担金	5,000,000	5,005,000	〃
	協賛金	300,000	1,890,000	協賛企業54件
	受取利息		19	
	合 計	5,540,000	7,135,019	
支出の部	費目	予算額(円)	実績(円)	備考
	人件費	1,200,000	1,034,160	
	事務・通信費	1,000,000	1,275,020	
	交流会・会議費	300,000	735,251	
	旅費	300,000	0	
	PR/HPおよびHP作成	800,000	763,392	広報紙第1号
	新潟大学事業共催費	1,000,000	0	
	渉外費	500,000	0	
	郵便口座振替手数料		13,070	
	予備費	440,000	30,547	
	小 計	5,540,000	3,851,440	
	剰余金		3,283,579	交流会延期及び広報紙2号17年度支払いの為
	合 計	5,540,000	7,135,019	

新潟大学図書館

新潟大学図書館の目指すもの



附属図書館長 大熊 孝

図書館とは、その歴史を見ると、誰もが何時でも無料で自由に情報を収集するところであり、民主主義の重要な装置といえます。新潟大学図書館も「誰もが、何時でも、無料で、自由に、居心地よく、情報に接することができる図書館」を目指して、開館日数・時間の延長、一般市民貸出し、バリアフリー対策、電子ジャーナルの整備などに努力してきました。特に電子ジャーナルは、学内のコンピュータから24時間体制で自由に約17,000誌の論文を読むことが可能であり、年間アクセス数も約30万件に達しています。この利用誌数は全国の国立大学法人の中で第1位であり、教員・学生ばかりでなく、留学生からも好評を得ています。しかし一方で、蔵書数は約165万冊に達していますが、書庫が狭く、その約半分しか収容できず、残りは教員の研究室に長期貸し出し状態となっています。早く図書館を増築し、すべての図書を収容して、誰に対しても自由に貸し出せる体制にしたいものです。



中央図書館(五十嵐キャンパス)

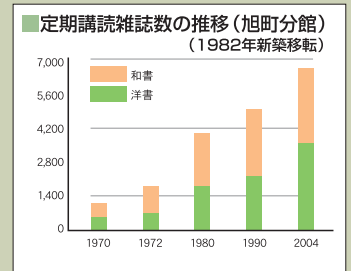
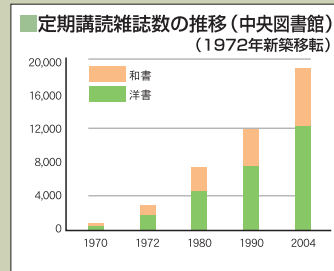
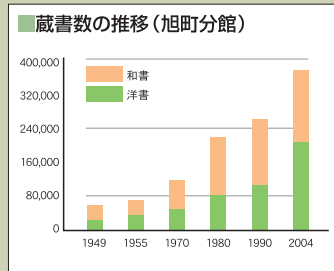
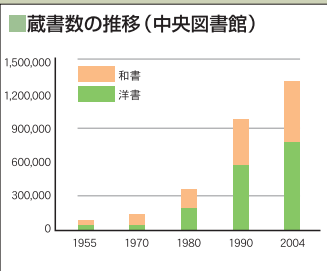


旭町分館(旭町キャンパス)



図書館データベース

新潟大学図書館の蔵書は新潟県内で最大規模です。中央図書館には平成17年4月1日現在で128万2,633冊、第2位の新潟県立図書館の2倍あります。旭町分館には370,086冊あり、長岡市立図書館に次いで第4位となっています。



ISO14001 認証取得

学会のPCOはお任せください。
環境にやさしい
学会創りをめざします。

株式会社 新宣

本社 〒950-0983 新潟市神道寺2丁目3番23号
朱鷺メッセ営業所 〒950-0078 新潟市万代島5番1号 (朱鷺メッセ19F)
長岡営業所 〒940-0064 長岡市殿町1-6-2 (川上ビル4F)

TEL 025-243-6827

地域医療支援病院
臨床研修指定病院 地域リハビリテーション広域支援センター
地域周産期母子医療センター 日本医療機能評価機構認定(第23号)

財団法人 竹田綜合病院
会津若松市山鹿町3番27号(代) ☎(0242) 27-5511

山鹿クリニック
会津若松市本町1番1号 ☎(0242) 29-6611

診療予約 ☎ **0120-599-489**

新潟大学 56年の 図書館のあゆみ

新潟医科大学、長岡工業専門学校、新潟高等学校、新潟第一師範学校、新潟第二師範学校、新潟青年師範学校、新潟県立農林専門学校が母体となり、昭和24年に新潟大学が発足しました。しかし、広い県内に点在していた施設は、政治的な理由から統合が進まず、中央図書館建設も宙に浮いた状態が長く続きました。統合の見通しのたった昭和47年に、中央図書館はようやく五十嵐キャンパスに新設され、その後目覚ましい発展をとげ、新潟大学の教育・研究に大きく貢献しています。旭町キャンパスの旭町分館も整備が着々と進み、24時間利用も可能になりました。



旧教育学部分館 (昭和4年～)
平成13年から旭町学術資料展示館として活用されている。平成17年、「医学部の表門及び煉瓦塀」とともに、国の登録有形文化財に登録された。登録有形文化財(建造物)は50年以上の建物が対象で、従来の国の指定重要文化財と異なり規制が緩やかで、積極的に活用できる。



旧医学部分館 (旧中央図書館、後に旧旭町分館) (昭和5～57年)
新潟大学の発足後、中央図書館としての機能も担った。



旧人文学部分館 (大正8年～昭和47年)



旧医学部分館閲覧室 (昭和30年頃)



昭和47年、中央図書館が五十嵐地区に新築移転



昭和54年、平日20時まで時間外開館開始

(1949)

昭和24年



昭和35(1960)

昭和45 (1970)

新潟大学の動き



昭和24年、新潟大学発足
旧教育学部講堂で開学式が行われた



昭和37年、教養部が発足
旧人文・理・教育学部の校舎を借りて授業が行われた。



昭和41年、プレハブ校舎新設
新潟大学統合問題が紛糾。夏は超暖房、冬は超冷房の中での授業が続いた。



(新潟日報より)

昭和43年 新潟大学本部占拠
統合問題は、学内紛争、更には全国的な学園紛争とも呼応して、激化、泥沼化し、学内の各施設が学生により占拠された。

昭和42年 脳研究所が旭町地区に新設。

昭和47年 人文学部が五十嵐地区へ移転。

旧医学部図書館を想う



大学入試センター理事長・新潟県参与
前新潟大学学長 昭和35年医学部卒

荒川正昭

私が入学した昭和29年、戦前からの木造建築と戦後のプレハブ建築が立ち並ぶ旭町・西大畑キャンパスのなかで、洋風建築の医学部図書館は際立った存在でした。大学・大学院・無給副手時代を通じて、図書館は唯一の情報源であり、通うこと屡々でした。新刊閲覧室、書庫は薄暗く、稍黴臭かったのですが、その雰囲気は若い知的好奇心をかきたてました。また、雲上人であった教授の方々の傍で新刊を読むことは、興味以上に緊張感の連続でした。パソコン画面で全てを知りうる今でも図書館が存在するのは、それなりの理由がある筈です。温故知新、先達の苦悩の道を辿ることも新しい道を切り開く第一歩であります。

中央図書館新築移転の思い出



附属図書館情報サービス課

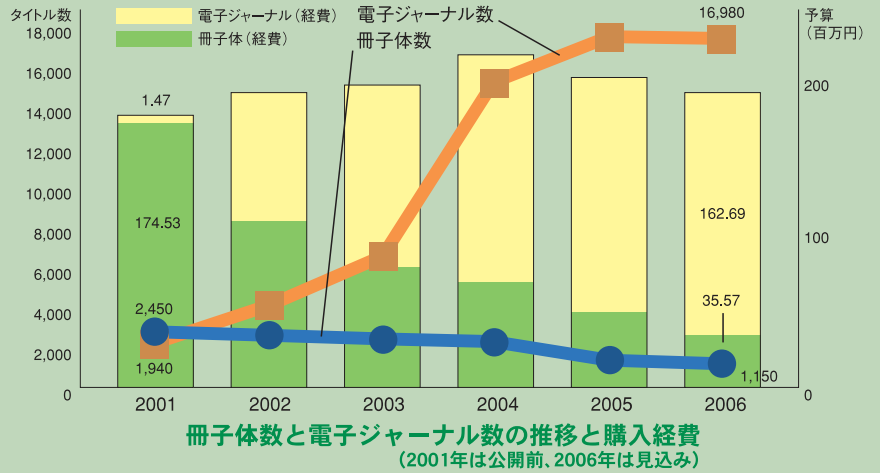
佐藤浩昭

中央図書館は、大学開設と同時に発足しましたが、名ばかりで、図書も独自の建物もなく、中央図書館の新築は教職員・学生にとっては悲願の夢でした。そんな中、私は、昭和42年5月から開設された教養部図書室勤務となり、中央図書館新築後の学生用図書の整備充実に少ないスタッフで毎日業務を行っていました。教養部及び中央図書館の2度に渡る移転を経験し、図書のダンボール詰めから運搬作業、配架作業と職員一丸となって行ったことは、苦労と共に良い思い出として残っています。中央図書館オープン後は、広い閲覧室に開架図書、研究個室等施設、設備が充実し、利用者から大変喜ばれたことを思い出しています。

電子ジャーナルとは、雑誌をインターネット経由で閲覧するものです。購入タイトル以外にも出版社の提供する多数のタイトルを利用できるので、少ない予算で膨大な雑誌数を閲覧できます。図書館に足を運ばなくてもダウンロードでき、キーワードや著名名の検索も簡単で、いち早く情報を入手できる利点があります。

確かに、冊子体より読み辛く、契約を中止すると、最新号だけでなくバックナンバーの閲覧も出来なくなるという欠点があります。しかし、バックファイルをCD-ROMで購入する対処方法もあり、最近の技術進歩により、出版社による巨大データベース構築やその安定供給の確実性が増しつつあることも考慮すべきです。

新潟大学図書館は、冊子体の購入と電子ジャーナル契約のバランスをとりつつ、限られた予算を有効に活用し、教育・研究に貢献してゆきたいと思えます。



昭和49年 農学部が五十嵐地区へ移転。

昭和54年 法文学部(元人文学部)が人文学部、法学部、経済学部へ改組。

昭和55年 学内紛争が終息に向い、教養部、理学部は五十嵐地区移転。各学部の五十嵐地区への統合は加速されたものの、医・歯・脳研は旭町地区で整備することになった。(新潟日報より)

昭和57年 旭町分館が新築移転

昭和58年 中央図書館増築。

平成2年(1990) 昭和57年 教育学部が五十嵐地区へ移転。

平成5年 教養部が廃止。

平成6年 学内LAN網の構築と専用回線によるインターネット接続開始。

平成6年 OPACが学内LANに接続。

平成7年 インターネット利用者端末の図書館での利用開始。附属図書館ホームページ開設。MEDLINEが学内LANに接続。

平成8年 マルチメディアコーナー設置

平成9年 貴重資料画像情報検索システム開始。

平成10年 貴重医学資料画像データベース公開。

平成11年 学生証を図書館利用カードに兼用。

平成12年 一般市民への図書貸出開始。旭町分館が増築され、24時間開館が開始された。

平成14年 電子ジャーナルの閲覧開始。(2005)

平成16年 新潟大学が国立大学法人に移行。新潟大学全学同窓会連絡協議会が設立。

平成17年

中央図書館(五十嵐キャンパス)

旭町分館(旭町キャンパス)

一期生は語る



昭和26年教育学部卒

中川幸次

昭和24年の開学時、長岡・新発田・高田の各分校で他学部の学生と学習・部活動を共にしました。卒業後の同窓会の発足にあたっては三分校一体をめざし、活動を進めてきました。

今後の全学同窓会は互いの交流を大切に母校新潟大学の発展への協力と、会員一人ひとりの生きる道に光りを与えるものであって欲しい。

昭和28年理学部卒

有磯邦男

当時の理学部生は西大畑の旧制新潟高校の校舎で学生時代を過ごしました。先生と学生は親密で、ご自宅へもよく遊びに行き、教室を離れたお付き合いの中でも多くを学びました。第1回卒業生を送り出してから、すでに半世紀を経過した今、やや遅い感はありますが、全学同窓会が立ち上げられることは誠に歓迎し、意義深いと思います。卒業生の一層のご活躍を願ってやみません。

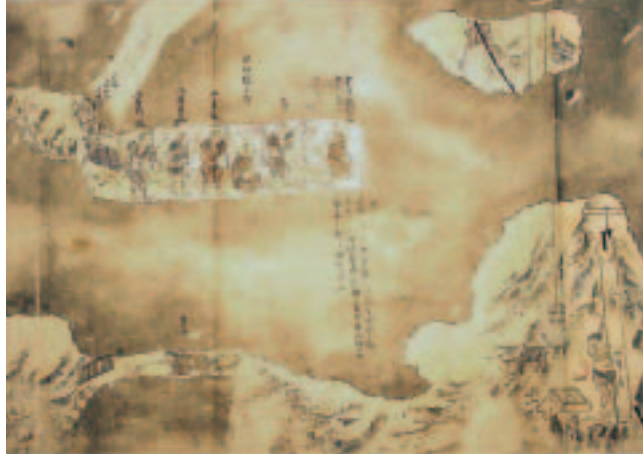


研究ツールとしての図書館



旭町分館長 吉江弘正

現在、研究を進めるうえで、最も重要な因子はおそらくスピードでしょう。現時点における、多くの正確な情報をすばやく収集、統合構築して、現在の動向と課題の明確化、そして目標設定と施設・人材・資金を配慮しながら具体的な案を作成する。この過程をいかに短縮して行動するかが、勝負と言っても過言ではありません。そのスタート、原点、拠点とも言える場所が図書館であり、蔵書と電子ジャーナルの活用です。新潟大学図書館の蔵書数165万冊、電子ジャーナル17,000誌を瞬時にアクセスすることができます。まさしく、教員・学生の共通研究ツールである図書館をより活用して育てていただきたい。



佐渡金山図絵 (佐野文庫)

貴重コレクションの収蔵

佐野文庫(写真)、五十嵐家文書など地元旧家から提供された多くのコレクションをもち、一般公開も行っています。

外国人にも 便利な図書館



積雪地域災害研究センター
客員研究員
モーリタニア出身

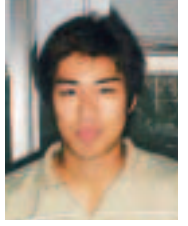
ウルドゥ・
エレミン・
シェイバニ

私は大学院生時代から図書館を頻繁に利用しています。広い分野にわたる膨大な蔵書に加え、電子ジャーナルも充実しており、図書館のない研究は考えられません。

研究室の自分のPCから文献検索できるし、他の図書館にある文献の複製依頼もできるからとても便利です。図書館へ行くと、親切なスタッフがサポートしてくれます。地学分野の文献データベースを導入していただけるとうれしい。

図書館利用の昨今

農学部応用生物化学科4年 種田裕士



新潟大学図書館には歴史文学作品から専門書まで幅広く揃っているの、読書やレポートの作成等に活用してきました。冷暖房完備なので夏あるいは冬でも快適に読書を楽しめますが、試験期間中には私語が目立つようになってきて少々辟易します。現在は卒論研究のため、図書館のホームページにリンクされた専門雑誌を自分のパソコンから読んでいます。研究室にいながら手許で情報を集めることができるようになりましたが、今でも清閑とした図書館での読書は楽しみの一つです。

市民にも 知の宝庫(豊庫)

新潟市在住

佐藤成二



あらゆる分野
の膨大なる蔵

書、貴重な資料や文献、時代の先端をいく専門書、流石が最高学府の図書館だけあります。其れに何か調べて書きたいものがあると其れ等に関する資料や文献が何でも揃っています。又、閲覧室や学習室に広いスペースを取っている事や利用する学生のマナーの良さが図書館が本来持つべき落ち着いた静かな雰囲気醸し出しています。此の様に静かで知が一杯詰まっている図書館を一般に開放してくれている事は凄く有難い。

人・まち・文化、新潟大学

特別寄稿 新潟の可能性を広げる舞台—朱鷺メッセ

朱鷺メッセ代表取締役社長
元副知事 人文学部法律専攻学科
昭和34年卒

小川和雄



夕日が美しく染まる信濃川河口に立つ朱鷺メッセは、国内でも有数のコンベンション施設だが、母校や同窓の皆様とも縁の深い施設でもある。

開館以来、展示会、大会、会議、コンサートと、ビジネスからエンターテイメントまで幅広く利用されているが、朱鷺メッセの年度の催事は母校

の入学式で始まり、卒業式で締められる。新潟の未来を担う後輩たちの門出をここで見るのは感慨深い。更に、先生方のご尽力により、年三十件に上る学会が開かれており、知の発信拠点ともなっている。

大学の法人化により、母校も様々な改革を進めていると聞く。大学が有する知の資産・文化に対する期待は、今後、地域のあらゆる分野で大きなものとなるだろう。産学連携が進む中、新潟の新しい

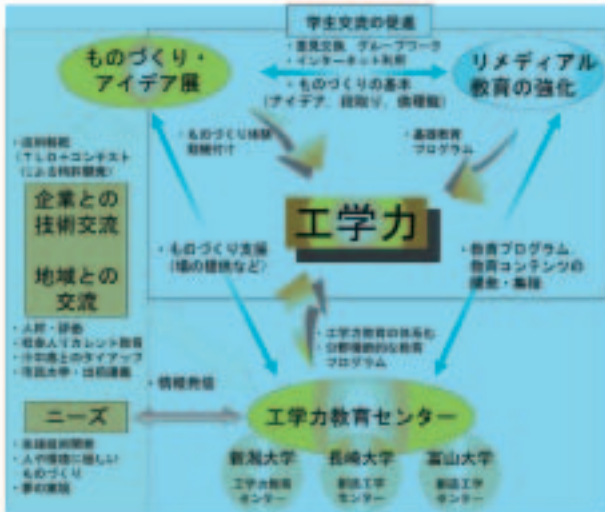
可能性を切り開くに違いない。

朱鷺メッセもまた、縁を大切に、地域の発展に貢献するため、新しい可能性を広げる舞台として挑戦していきたい。



朱鷺メッセ
施設全景

新潟大学の最新研究



工学力教育センター (工学部)

工学部では、文科省で採択された「特色GPプロジェクト」に基づき、「工学力教育センター」を設立しました。このセンターを中心に、学生・企業・教員が一体となった「実学による教育・研究」に取り組んでいます。
(工学力教育センター長 丸山武男)



(上)工学力教育センターの概観
(右)住民と学生の協働による雁木の建設



新潟歴史救済ネットワーク (人文学部)

平成16年11月、「新潟歴史資料救済ネットワーク」が日本文化講座 矢田俊文教授を事務局長として発足しました。関係機関や全国の仲間と連携しつつ、災害地の貴重な歴史資料の救済・保全活動を行っています。(人文・法・経済学部同窓会 太田二郎)

(左)山古志村からの民具・文書の搬出



高磁場MRIの臨床応用 (脳研究所)

人間の内部の様子を非侵襲的に調べるMRI研究はあらたな段階に入りました。その一例として、「水分子は神経細胞の軸索の長軸に沿った方向に速く拡散する」という性質を用い、複雑な走行を示す神経細胞の連絡路である軸索を高精度に画像化することが可能になりました(3次元不等方コントラスト:3DAC)。
(脳機能解析学分野 松澤 等)



(斜上)
3DACを利用したヒト大脳基底核レベルの軸索画像(正常例)。左右に走る軸索は赤、上下は緑、断面を貫く方向は青で表示され、解剖学的知見に一致しています。様々な神経疾患への応用が期待されます。
(上)国内で最初に導入されたヒト用3テスラMRI装置。現在7テスラでも応用を進めています。

私たちが新潟大学を応援しています

愛宕商事(株)・荒井印章・五十嵐銅鉄店・(株)ウオロク・(株)牛木組・エアプラック(株)・(有)大沢印刷所・鹿島建設(株)・金井度量衡(株)・亀田郷土地改良区・(株)キタック・(株)北村製作所・共立印刷(株)・(財)協和会・(株)考古堂書店・(株)小林印刷所・(株)コロナ・(株)サクライ・佐藤食品工業(株)・(株)サンケイ情報ファシリティ・(株)サン・システム・(株)ジェイマック・(株)七里商店・清水建設(株)・(株)白川商店・(有)信成科学・(株)新宣・(株)新日興業・新日本空調(株)・(有)真保電機工業・(株)シンワ歯研・スズキ商事(株)・(株)鈴商・住友電工ウインタック(株)・青陵法律事務所・太平興業(株)・医療法人社団高橋整形外科・(財)竹田綜合病院・中央補償鑑定(株)・(株)千代田設備・(株)東陽理化学研究所・監査法人トーマツ・トップ工業(株)・轟産業(株)・公認会計士富岡清嗣事務所・中田会計事務所・(株)新潟オービックシステムエンジニアリング・(株)新潟科学・新潟県厚生連柗尾郷病院・新潟県労働金庫・新潟サンセルフ・新潟総合警備保障(株)・新潟大学生協同組合・新潟中央青果(株)・新潟電機(株)・新潟ニッタン(株)・(株)パイオニア・(株)博進堂・長谷川体育施設(株)・(株)島山種苗園・光タクシー(有)・深滝経理事務所・(株)福田組・福田道路(株)・(株)ベネミール・北越工業(株)・星野電気(株)・(株)細貝建築事務所・(株)細山商店・(株)ホテルオークラ新潟・(株)ホテル新潟・(株)メディス・八百六商店・(有)やしち酒店・ユニオンツール(株)・(株)リビングギャラリー (平成17年8月31日現在)

新潟大学からのお知らせ

地域との連携の推進

国立大学は教育研究の高度化及びその成果を活用した社会貢献を求められています。本学は、産業、文化、教育、学術等の幅広い分野で相互協力し、地域の発展及び人材の育成に寄与するため、次の自治体及び金融機関と包括連携協定を締結しています。

● 第四銀行との包括連携協定の締結(平成17年3月)

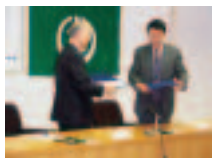
本学の持つ知的財産と第四銀行のネットワークを活用して、地域産業や地域文化の振興を図っていきます。

● 新潟市との包括連携協定の締結(平成17年6月)

更なる組織的な連携を図りながら、地域社会の発展と人材の育成に寄与し、新たに「バイオマスエネルギー利用促進事業」「こころの健康促進事業」に取り組む予定です。

● 日本政策投資銀行との包括連携協定の締結(平成17年7月)

日本政策投資銀行の持つ国内外の広い情報ネットワーク、金融財務等のノウハウ等を有効に活用して、研究、教育の活性化を図り、社会貢献の推進体制を構築します。



協定書を取り交わす長谷川学長(左)と篠田新潟市長(右)

新潟県連続災害への取り組み

● 「復興科学センター」の設置

新潟県地域における災害復興を推進するため新たにセンターを設置しました。総合大学である本学の特性を活かし、学術的かつ多角的視野から調査分析及び提言を行い、地域再生に取り組んでいきます。

● 「災害シンポジウム」の開催

様々な専門分野の教員による調査研究結果に基づき、平成16年度は災害シンポジウムを2回開催し、成果報告及び問題提起を行ってきました。災害シンポジウム(第3回)は「創造的復興への扉〜ひと・まち・くらし〜」をテーマに平成17年10月15日(土)開催を予定しております。詳しくはHPをご覧ください。



第2回 災害シンポジウム(平成17年3月)「新潟県連続災害の検証と復興への視点」

キャリアセンターからのお願い

キャリアセンターでは、在学生のキャリア意識形成及び進路に関する支援のため、同窓生の皆様に対して、次の点についてご協力をお願いしております。

● OB・OG訪問のためのOB・OG連絡先登録依頼

● OB・OG訪問の相談可能内容の登録依頼

● 各種情報の提供依頼

各学部同窓会を通じて「在学生の進路に関するご協力」の文書を順次送付しておりますので、ぜひご協力くださるようよろしくお願いいたします。(詳しくはHPをご覧ください。)



キャリアセンター(総合教育研究棟(旧教養校舎)内)

新潟大学全学同窓会連絡協議会

お問合せ・連絡先は 〒950-2181 新潟県新潟市五十嵐2の町8050番地

TEL025-262-7891 FAX025-262-7892

dosojimu@adm.niigata-u.ac.jp

http://www.niigata-u.ac.jp/gakugai/gr/dousoukai/

全学同窓会連絡協議会からのお知らせ

新潟大学・全学同窓会交流会
記念講演会および懇親会のご案内

● 講演会/「青色発光ダイオード開発!ー田舎から世界に羽ばたくー」

◇講師/中村修二先生(米国カリフォルニア大・教授)

◇日時/平成17年10月29日(土) 17:00~18:15

◇場所/ホテル新潟 2階「芙蓉」(新潟市万代5-11-20)

● 懇親会

◇日時/平成17年10月29日(土) 18:30~20:30

◇場所/ホテル新潟 3階「飛翔」(定員450名)

● 会費/講演会無料。懇親会6,000円 いずれも事前申し込み必要

● 主催/新潟大学・新潟大学全学同窓会連絡協議会

今回のイベントは、昨年、新潟大学が国立大学法人組織に移行し、同時に全学的な同窓会組織ができて以来、両者が共催する初めての集いです。

講師の中村修二先生(写真)は、青色発光ダイオードで著名な技術者でありかつ学者ですが、理科系離れが進みつつある日本に警鐘をならし、日本再生に向けた御自身の提言も講演される予定です。



Photo by Naonori Kohira

昨年の交流会懇親会は、突然の新潟県中越大地震のため中止になりました。今年は、市民や企業の方を含め、できるだけ多くの方に参加いただき、学部同窓会の枠を越えた交流を深めつつ、新潟大学全体への支援やこれからの新潟大学同窓会についても語り合っていたきたいと思っております。懇親会には中村修二先生も参加されます。

同会場では、新潟大学の各部局の最新の教育・研究を示す「パネル展示」も行います。

参加申し込み(受付は先着順)

10月11日までに、FAX、手紙(葉書)のいずれかで、講演会・懇親会の参加を各々明記の上、事務局に申し込み下さい。卒業生の方は学部、学科、卒業年次、企業関係の方は企業名の記入をお願いします。

参加者には「参加証」「振り込み用紙」をお送りします。懇親会費のお振り込みはできるだけ事前をお願いします。

詳細パンフレットを連絡協議会事務局に請求下さい。HPにも詳細を掲載してあります。

首都圏同窓会からのお知らせ

● 新潟大学東京事務所開設1周年講演会及び協会発足懇親会開催

平成17年7月30日上野彰客員教授(工学部卒)が中心となり、首都圏同窓会の有志が集まり、新潟大学東京イノベーションクラブが発足しました。40年から50年卒を中心として各学部から理事を選出し会の運営にあたる事となりました。組織名は違うものの首都圏同窓会員によるサポート事業といえると思います。

● 第22回新潟大学首都圏同窓会納涼会が8月26日(金)に開催されました。長谷川学長、柳本会長を来賓にお迎えし、夏の一時を越後地酒と越後料理で大いに盛り上がりました。

● 第34回首都圏同窓会総会のお知らせ

日時:10月27日(木)18時30分より 会場:東京駅ルビーホール、幹事学部:農学部(会長村上哲昭 昭和50年卒)

運営委員会広報部より

電子ジャーナル増加の背景には、冊子体の高騰が進んだことにより、冊子体経費を振り替え、閲覧一冊あたりの経費を安く押えたいという事情もあるのかもしれません。しかし、財政事情の厳しさは理解できますが、将来の図書館利用者にとって、直接手にでき、長期保存の信頼度の高い冊子体が蔵書として減ることは決して好ましくありません。全学同窓会は、新潟大学全体への経済的な支援を同窓生等にお願しやすいことも目指しています。